



今、小児科医が不足しているといわれています。医師不足で、中・大規模病院でも小児科を閉鎖するというニュースも聞きます。

本当に小児科医は減っているのでしょうか。統計によると去年の小児科医の数は1万4700人。10年前は1万3781人で、実は増えているのです。しかし、小児科医の大半は小規模医院や開業医で、問題なのは小児救急が出来る医師の数です。

小児救急医療の現場は高い志を持って小児科医になった医師ですら、戦線を離脱してしまうほどに過酷な現場です。大人と違って自分で症状を説明できない子供に対しては細心の治療が必要です。また、このところ問題となっている「コンビニ受診」問題があります。緊急を要しない子供が救急病院へ駆け込むケースが増えているのです。対応できる小児科医の数は限られており、医師は精神的、肉体的負担を増幅させられている。そんな現状があるのです。そうした中で、100人の患者のうち1人は重い病気かもしれない。小さな命を救うために小児科医は頑張っているのです。

こうした小児救急医師のテレビドラマが始まります。「小西真奈美」主演で24時間体制の小児クリニックで未来のある子供たちの命を救おうというドラマ「小児救命」です。あさひテレビで毎週、木曜日午後9時からです。

結局、番組宣伝になってしまいました。小児科医師に感謝をしつつ番組を見たいと思います。皆さんもいかがですか。



<9月14日 第159回 ほほえみの会>
晩期障害を心配する3人の参加でした

▽ 肝芽腫治療後、難聴になっている。「先生」が「てんてい」に聞こえて、言うと笑われ、いじめにあう。特に高音が聞こえない。せみの鳴き声や電子音、自動車のクラクションが聞き取れない。治療の時に医師からは影響が出るとは言われたが、生活に影響はない範囲内だと言われた。本人にとっては大きな問題であり、これからの人生は長いので機能アップをさせたいが、情報が無い。フォローアップ外来で相談したいがみんなはどうしているのだろうか。

<10月12日 第160回 ほほえみの会>
入院したばかりの方を含め4人の参加でした。

▽ 4歳の女の子、悪性リンパ腫の疑い。3ヶ月ほど前から足の付け根が痛いといって足を引きずって歩くようになった。いくつかの整形外科で診てもらったがわからない。たまたま発熱があつて風邪の様子なので近くの小児科で診てもらったところ、医師が歩き方がおかしいことに気づき、こども病院を紹介してもらった。来週の検査で病気がはっきりする。整形のつもりで外科に入院した所、血液科だと言われ、リンパ腫との病名を聞いたときにはショックで、めまいがして気分が悪くなった。足の付け根は転移で骨が破壊されているようだ。1歳の弟がいる。まだ母乳が放せないし、血液科の病棟へ入院したら面会と育児をどうしたらいいのか悩む。また、医療費がどのくらいかかるのかわからない。絶対に治るという思いで治療に望みたい。

次回は 11月 9日(日) 11時からです

ほほえみの会 代表 池田恵一 TEL054-247-9560

E-mailアドレス k_likeda@yahoo.co.jp

ホームページ <http://www.geocities.jp/hohoeminokai/>